

case:

- ・ 63 歳 男
- ・ 診断：UAP
- ・ 経過：HD 中,post CABG,LITA のみ patent の Pt.,今回 UAP で入院、CAG にて RCA に 90% 狭窄 (severe calcification) あり今回の責任病変と考え PCI 施行となった。石灰化強い
ためまず Rota による debulk を施行した。Rota 中少しずつ wire がぬけてきており、wire
が途中でスタックされ結果的に断裂してしまった。
- ・ 対処法
 - ワイヤー2本入れて絡ませてとる
 - スネアでとる
 - ステントを留置する
 - 末梢であればそのまま様子を見る (抗血小板剤は続ける)
 - 病変部を広げてみる
 - 外科にコンサルトする
- ・ 予防法
 - 石灰化の強い慢性病変の側枝の wire は低圧でも trap されやすいのでどうしても protect
したいときは 8atm で本幹の stent 留置した後再度 wire を recross する
 - PT2,Neos Fielder のような hydrophobic な wire は断裂しやすいので、上記のような病変で
は runthrough,Neos Route といった wire を用いる